

てんき
あした天気になあれ31



2022(令和4)年度「こころあったか(人権)ポスター」最優秀作品

天満小学校3年 森田 ^{ゆづき}優月さん



す て き と し か さ か た 素敵な歳の重ね方

かがや かがや
★輝き、輝かされて★

稲美町ボランティア連絡会 会長

よしたか
土井 義隆 さん(相ノ山)を訪ねて

● 普段どのような活動をされておられますか？

シニアクラブ(老人クラブ)の世話役や傾聴ボランティア、運転ボランティア、民友会、いきいきサロンのハートスタッフなど日々忙しく活動しています。

今年は特に民友会の新しい活動として、小学校から依頼のあったベルマークの整理に取り組みました。皆さんと色々とおしゃべりをしながら楽しく活動しています。

自宅にいる時にはパソコンで韓国の映画を観たりしています。字幕を読むのが疲れるのですが、よい刺激になっています。

● 活動の原動力になっている考え方はどのようなものですか？

会社勤めをしていた約30年前に、社会に貢献したいという気持ちが芽生えました。早速、社会福祉協議会に相談し、運転ボランティアグループに入りました。それ以来、何か社会のお役に立ちたいという思いを原動力に取り組んできました。

また、自分自身が高齢(81歳)になっても、こうして活動できる健康な状態をありがたく思っています。感謝の気持ちですね。

● 藤田さんの作文(右ページ参照)を読んでどのような感想をお持ちですか？

おじいさんを思うまっすぐな気持ちに打たれて、思わず涙が出てしまいました。現実にはこのような状況の方も多いと思います。おじいさんの「世話になってすまないな。」と思う気持ちもわかるような気がしますし、ご家族もつらい気持ちがあると思います。

そんな中、昔おじいさんにいっぱい遊んでもらって可愛がってもらったという感謝の気持ちを抱かれたことはとてもすばらしいと思います。素直にその気持ちを伝えてもらえればきっとおじいさんもうれしいと思いますね。

私も入院から帰ってきた時に、ひ孫が「おかえり」という幕を作ってくれたことがありました。あれはとてもうれしかったですね。

● ご高齢の方がいきいきと生活するために、どのような配慮が大切だと思いますか？

歳を重ねるとできないことも増えてきて自信を失い、場合によっては生きている価値自体をも見失いそうになるものです。ですから、藤田さんのようにまわりの方が尊敬や感謝の気持ちをきちんと伝えることが大切だと思います。たとえ体が不自由になったとしても、その方の存在に支えられている方はきっといらっしゃるのですから。

傾聴ボランティア活動を通じて、手紙で交流をしている方がいます。その方も体は不自由なのですが、手書きの文章と共に見事な絵を添えて送ってきてくれます。私に手紙を送るということが生活の張りになってくださるならばうれしいですね。受け取った私もとてもうれしいです。

役割があるということと、その方が『居てくれる』価値をまわりの方が再認識して、きちんと伝えていくことが大切だと思いますね。

● 同世代の方々に向けて一言お願いします。

可能な方はぜひシニアクラブの活動に参加して欲しいと思います。いきいきサロンなども身近な地域で実施されています。参加して学び、体を動かし、人と交流することは自分自身の豊かな生活につながっていくと思います。

もちろん介護が必要になって、地域の活動に参加しにくい方もあると思います。そういう方も例えばデイサービスに行くことを前向きに考えて欲しいと思います。自宅にいるばかりでは得られない友だちづくり、つながりづくりの場と捉えてもらえたらと思います。

地域の色々な人とふれあって、気さくに声をかけあえる関係性を作っていくって欲しいですね。

2022(令和4)年度 ころあつたか人権作文優秀賞を受賞された 稲美中学校
2年藤田樹生ふじたいつきさんの「今でも思い出すこと」より、一部抜粋して紹介します。

僕の祖父は高齢なのに一人で住んでいます。でも最近一人で動くのが困難でベッドから動こうとするとどこかで転倒してそのままそこで寝てしまっていることがあるそうです。母が時々様子を見にいくと「まだ生きててごめんね。」と言うそうです。迷惑をかけることをとても申し訳なく思っていて、それを聞いた時、とても悲しい気持ちになりました。人が生きていることであやまるなんて違うと思いました。僕は、今度祖父の家に行って、「生きてていいんだよ、長生きしてね、みんなが喜ぶよ。」と絶対に言ってあげたい、いや言わないと、と思いました。

僕がまだ小さい時はたくさん遊んでくれて、たくさん可愛がってくれました。だから、今は僕の方が体も大きくなったので、どこかで寝てしまっていたら、ベッドまで一緒に行ってあげようと思います。祖父が「自分はまだ生きていていいんだ。」と思ってもらえるように、今度は後悔しないように励ましていこうと思います。

外国人から見た 日本、日本人



Welcome to Inami!

稲美町にもたくさんの外国籍の人が住んでいます。私たちのことをどのようにとらえているのでしょうか。

この人にインタビュー

サカエ ユウジさんのプロフィール

フィリピンから母と二人で10歳（小学校5年）の時に来日。中学校1年の9月に、他県から稲美町の中学校に転入。

稲美町の日本語特別教育支援員が週7時間程度、中学校卒業まで支援する。現在、兵庫県立高等学校定時制に在学中。



(日本語表現が不十分な部分は、意味を補って記載しています。)

日本に住んでみて、良かったことは何ですか？

- 最初に空港で一番に思ったことは、“寒い”でした。フィリピンは、1年中暑い国です。日本は四季があり、変化があつていいと思いました。
- それから日本には、おいしいものがたくさんあります。ほしいものが、簡単に手に入るのも、いいなと思います。小学校の時、初めてシャープペンシルを見ました。便利なものがあると思いました。

稲美町在住外国人人口の推移 (人)



地域別人数割合 (令和3年3月末)



日本人について、どう思いますか？

- 日本人は優しく、親切です。初めて小学校に行った時、私の周りにたくさん子どもが寄ってきて、「仲よくしよう。」と言ってくれました。言葉はあまりわかりませんが、とてもいい気分になりました。先生も優しかったです。
- 稲美町の中学校に転校してからも、友だちができて、楽しかったです。部活動も皆と一緒にしっかり練習して、試合に出たり応援したりしました。(フィリピンには部活動はありません。)私の日本語がおかしいところは、友だちが教えて直してくれました。たとえば、「『雨が降っているかも』ではなくて、『雨が降りそう』だよ。」といった具合です。わからないことや困ったことは、先生や友だちに聞くとうるやうに教えてくれます。日本人は親切だと思います。

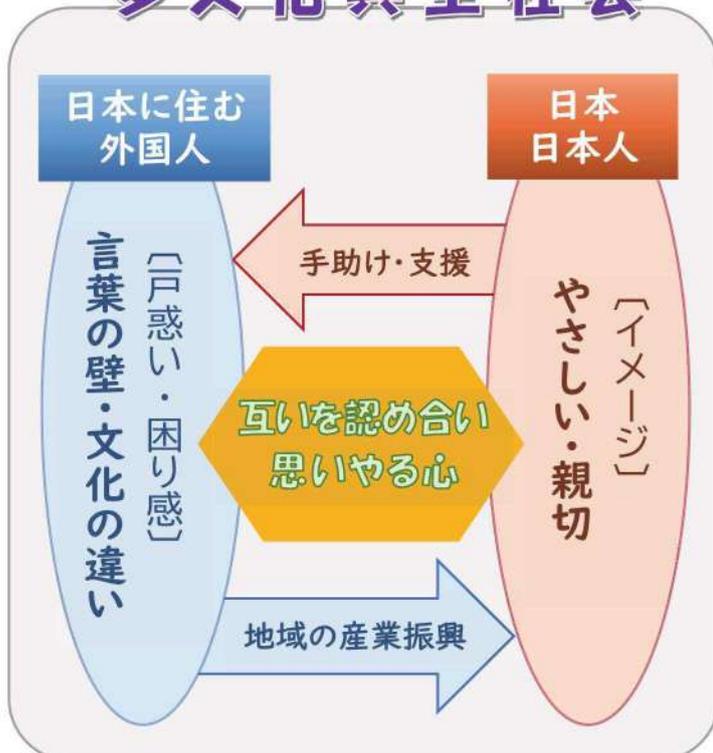
日本で困ったことは何ですか？

- ▲ 言葉です。日本語には「が」「は」「で」「を」「に」などがあって、どれが正しいかわからないです。それから、年上の人に言う言い方や友だちに言う言い方などが違うので、分かりにくいです。最初、日本語があまり上手ではないので、話すのがとても恥ずかしいと思っていました。けれど、助けてくれる人がいて、少しずつ日本語にも慣れてきたから、質問や意見を言えるようになってきました。
- ▲ 病院に行くとき、たいへん困りました。私の場合は、母の知人（日本人）と一緒に行ってくれたので、なんとかできましたが、うまく伝えられない、伝わらないことが心配です。英語などの外国語に対応できると助かります。
- ▲ 新しいスマートフォンを買うときも、たくさん書くことがあって困りました。漢字がわからなくて何を書いたらいいのかが分からず、時間がかかり苦労しました。英語で書いてある書類があれば、助かると思いました。

外国人が快適に生活するために、どんなところを改善してほしいですか？

- ▲ インターナショナルスクールが、日本には少ないと思います。外国の人（子どもだけではなく大人も）が、日本語を学べる学校が近くにあればいいと思います。
- ▲ 電車で姫路に行った時、母が「ユウジ、ひとりで行ってすごい。」と言いました。電車の駅には、英語・中国語・韓国語の案内があるので困りません。稲美町にも、漢字の案内だけでなく英語や中国語の案内板があったら、わかりやすくていいと思います。放送（町内に役場から流れる放送のこと）も日本語だけでなく、英語のアナウンスがあってもいいと思います。

多文化共生社会



稲美町に住む外国籍の方は、中国・フィリピン・ベトナム・パキスタンなどさまざまで、言語も文化も風習も異なります。この状況をふまえて、稲美町では、該当する学校に日本語特別教育支援員を6名配置しています。

学校は、外国籍の子どもと保護者に、英語版の行事予定を渡したり、英語担当者が電話連絡したりするなど、細かく対応しています。

しかし学校を卒業してしまうと、支援が届きにくく、困惑しながら生活していると、改めて気づかされました。



ある日 学校に行けなくなった 私

ある高校生の手記

私は、小学校6年生の2学期から学校へ行けなくなりました。あんなに学校が好きで、勉強も得意で、先生とも友だちとも仲良かったのに……。あることをきっかけに教室に入ることができなくなりました。学校のことを考えるだけで頭痛・腹痛に襲われ、過呼吸を起こし、笑うことさえできなくなりました。自死を考えることも少なくありませんでした。

当時、そんな私を理解し受け入れてくれる人も少なく、心ない言葉や冷たい視線を日々感じていました。

「不登校なんて恥ずかしいね。」

「どうして普通になれないの。」

「ただ甘えているだけじゃない。」

「病気なんじゃないの?」と。



以前と変わらず接してくれる友だちや、何とか学校へ来られるようにと対応していただいた先生もいましたが、不登校に対する偏見や否定的な声は避けられず、心がちぎれそうに痛かったのを覚えています。

みなさんは不登校に対して、どう思われていますか。不登校は「甘えだ」「逃げだ」とお考えでしょうか。また「心が弱いから」「親の育て方が悪いから」でしょうか。

私は、不登校に対して「自分自身との闘い」と捉えていました。学校に行きたいけれど怖くて行けない。友だちと話したりやりたいことが沢山あるのに、人と目を合わせたりすること、その怖さにおびえ、死んでしまいたいという思いや、生まれてきたことを後悔してしまう思いと闘いながら必死に息をしていました。そして、私は、このまま学校へ行っては死んでしまうと思い、不登校という道を選びました。誰に何と言われようと私の選んだ道は「逃げ」でも「甘え」でもなく、自分自身の命を守るための選択でした。

きっと今、不登校で悩み苦しんでいる人たちも闘っているはずです。誰にも言えない、理解してもらえない気持ちを抱えて、必死に息をしているのです。

本人からのメッセージ

▶ 皆さんに

もし周りに学校に行けていない人がいたら、その人を独りにしないでください。少しでも話したり、一緒にご飯を食べたり、散歩してみたり、ただ隣にいただけでもいいのです。自分は独りじゃないとわかった時、初めてその人は救われます。

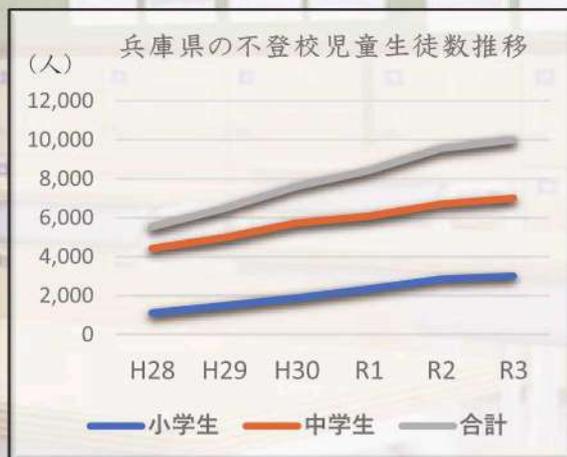
▶ 保護者の方へ

心配しなくても焦らなくても大丈夫です。今は大変かもしれませんが、再び立ち上がり、歩き出す日が訪れます。その日が来るまで、どうか待っていてあげてください。いつか、家族みんなで心から笑える日が来るはずですよ。

▶ 今、学校に行けずに苦しんでいるあなたへ

今日も生きていてくれてありがとう。あなたは独りではありません。進む道はいくらでもあるから大丈夫です。これからも悲しいことや辛いこと、苦しむこともあるかもしれないけれど、独りじゃないことを忘れないで。学校に行けずに、辛くて苦しい思いをしているこの日々は、必ずあなたを強くしてくれます。だから負けないで。

不登校とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因により、登校しない、あるいは、したくともできない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者をのぞいたもの」と規定しています。（文部科学省）



不登校生支援者の声

この手記にもあるように、不登校はだれにでも起こり得ることです。学校に行けなくなった子どものなかには、理解してもらえない辛さを抱え、罪悪感や後ろめたさを感じながらも、必死に自分と闘っている人もたくさんいるはずですよ。

しかし、私たちの周りでは、不登校になったと聞くと、「大丈夫?」「たいへんね!」といった反応を示す人がほとんどです。憐れみと同情の目で見てる人もいます。でも、これは勝手な思い込みかもしれません。「甘え」でも「逃げ」でもなく、命を守ることを最優先した選択もあるのです。

不登校で苦しんでいる子どもたち、そしてその保護者の思いを胸に、孤独にならないよう少しでも寄り添ってもらえたらうれしいです。

稲美から飛び立つ特攻隊

あいの ～相野飛行場を探せ！～

今も世界では戦争が起きています。尊い命、平和な生活が奪われる**戦争は最大の人権侵害**です。日本もかつて、太平洋沿岸諸国と戦争をしていました。みなさんは、稲美町にあった飛行場から特攻隊が飛び立っていったことを知っていますか？

国土地理院
現在の地図



今から77年前(昭和19年)太平洋戦争の末期、母里地区^{もり}草谷相野^{くさだにあいの}に陸軍相野飛行場(正式名:三木飛行場)がつけられました。昭和20年春、アメリカ軍が沖縄攻撃を始めると、アメリカの軍艦に爆弾と共に飛行機ごと体当たりする特別攻撃(特攻)をすることになりました。この飛行場で訓練していた部隊から24名が選ばれ、4月から6月の間に鹿児島県の基地を経て沖縄の空に飛び立ちました。8月15日に終戦になるほんの数か月前に出撃し、自らの命を犠牲にした若い兵士たちがいたのです。



出陣式(小林怜子さん所蔵)

母里小学校地域学校協働本部では、令和3年に小学生、中学生と保護者で相野飛行場跡地を訪ねました。

上空から見た現在の飛行場跡地



三木フライトクラブ提供



飛行機格納庫跡に
扉レールが残っていた

飛行場境界石杭を発見!



(「陸軍」、「100」の文字)

稲美町在住者から、戦争の体験談を聞きました。

● 87歳 当時5年生

相野飛行場作りの手伝いで石拾いや、雪がふったら雪ふみをして土固めをしました。作業が終わるとかんぱんを1個ずつもらって帰ることができうれしかったです。昭和19年10代くらいの若い特攻隊の人たちがやってきました。休暇の日は、地域の人と交流をしに村におりてきていました。私は家の裏山の中に隠してある飛行機に乗って遊んだこともあります。

ある日、家にいるときに突然すさまじい音がして、父親が焼夷弾攻撃だと勘違いして家を出ようとしたのを『出たらあかん!』と止めました。すさまじい音は焼夷弾攻撃ではなくアメリカ軍の飛行機からの銃撃(空襲)だったのです。あの時父が外に出ていたらどうなっていたか。そのときの銃痕が納屋に残っていました。

(イメージ図)



● 82歳 当時6歳

7月、昼夜関係なくボーイング B29戦略爆撃機が編隊を組んで須磨の山、高取山方面に数十機飛んでいきました。上空から焼夷弾がばら撒かれ、火の雨!爆撃の標的となったのが神戸の造船所、飛行機を造っている工場、今の西明石駅の南側にあった川崎航空機製造工場で、多くの人が亡くなりました。終戦後、神戸、明石など都会からたくさんの方が稲美町に来て、着物などと食べ物を交換していました。

● 39歳 昭和4年生まれの祖母から聞いた話

わたしも祖母から相野飛行場のことや裏山にあった防空壕跡などの話を聞いたことがありました。戦争当時祖母は女学生で明石の工場で働いていたときに空襲にあいました。防空壕が人でいっぱい入れず家を目指して死にもの狂いで山のほうへ逃げたそうです。明石は一晩中燃えて火の海だったそうで、たくさんの方が犠牲になりました。燃えるような赤い夕日を見ると時折明石のほうを見ては思い出していました。

三木飛行場(相野飛行場)を記憶する会代表、宮田逸民さんとしみから飛行場の説明を聞きました。



小学生の感想

- ◆ 僕たちの住んでいる近くにも、戦争の跡が残っているなんて知らなかった。直接体験した人から貴重な話も聞けてすごくよかった。
- ◆ これまでそばを通っても気にしてなかったものが、戦争のあとだったりしてびっくりしました。
- ◆ 稲美町にも飛行場などのあと地があることを知りました。他にも戦闘機があったり、格納庫があったりした場所がいまも残っていることを初めて知って、よかったです。

中学生の感想

- ◆ 母里小学校の児童や旧制姫路高等学校の生徒と一緒に働いて、飛行場を作ったことを初めて知ってびっくりしました。
- ◆ 小学1年生なのに石拾いや雪ふみをして滑走路作りを手伝っていたということに驚きました。
- ◆ 戦争は、今では考えられないほど国民全員が関わり、その手伝いをするなど、とても大変であることがわかった。だからこそ、この時代にこんな飛行場があったことや戦争のことについて忘れず、二度としてはいけないものなのだと改めて知りました。
- ◆ 学校の社会、歴史では習わない稲美町や三木市の歴史を知ることができて、とても満足しています。普段から戦争体験談を聞いて、次の世代へと語り継げるようにしたいです。

日本各地から若い飛行兵がこの相野飛行場に集められ、飛行訓練をしていました。特攻作戦が始まると軍艦に体当たりをする訓練もしました。稲美から飛び立つ特攻隊です。私たちは沖縄の海に散っていったこの若い命のことを忘れてはなりません。戦争こそ最大の人権侵害です。今も世界で起きている戦争。同じようなことが、日本でも、そしてここ稲美町でも起きていたのです。

2022(令和4)年度

がんばって ゆうきをだして ほらできた

加古小学校4年

ふくだ りょうた
福田 涼太

ありがとう うれしい^き気持ち つたわるよ

母里小学校3年

しみず みそら
清水 美昊

むいしき ひとつこと だいじょうぶ
無意識の その一言は 大丈夫?

天満小学校6年

なるせ あかり
鳴瀬 灯

ほらきつと きみの^{ことば}言葉で かわるんだ

天満小学校6年

ふるたに こうた
古谷 滉太

さかせよう まち ひろ はな
さかせよう 町に広がる えがおの花

天満南小学校4年

かわべ ひより
川邊 妃愛

じぶん い ひとり
自分らしく 生きていこうよ 一人じゃない

天満東小学校6年

こやま ひより
小山 日和

こころあったか人権標語

「キズつける」そんな言葉に ^{ことば} マスクしよ

稲美中学校1年 ^{みつまた かい} 三俣 蒼海

「おはよう」で ^{きみ げんき} 君が元気か わかるんだ

稲美北中学校3年 ^{いわもと な な か} 岩本 奈々花

つた ^{えがお} 伝わるよ! 笑顔になると ^{め わら} 目も笑う

(株)ADEKA明石工場 ^{たけなが ともゆき} 竹永 智之

^{こころ よ} 心寄せ ^{みみ かたむ} 耳を傾け ^{ひら} 開ける ^{みらい} 未来

兵庫南農業協同組合天満支店 ^{なかはら ともこ} 中原 知子

あいさつは ^{ひと ひと かきね} 人と人の垣根をこえる ^{あいことば} 合言葉

(株)神戸屋土山工場 ^{くりはら よしのり} 栗原 義則

^{ひろ} 広がる波紋 ^{はもん と} 止める ^{ゆうき} 勇気は ^{じぶん こうどう} 自分の行動

明石機械工業(株) ^{いそべ りゅういち} 磯部 龍一

2022(令和4)年度ころあったか人権作文優秀賞

主催:稲美町人権・同和教育研究協議会

稲美町内小・中学校から、たくさんの「ころあったか人権作文」が寄せられました。
そのなかで優秀賞に選ばれた作文は、つぎのとおりです。

「生きることの意味」	加古小学校 6年	かわぞえ 川添	ほの 帆乃さん
「ごみの行方とぼくたちの食」	母里小学校 6年	つかはら 塚原	しおん 慈温さん
「差別のない世界」	天満小学校 6年	まつもと 松本	みほ 美穂さん
「知っている人が増えたらうれしいこと」	天満南小学校 6年	おずみ 尾住	そうま 宗真さん
「『愛する』のおすそわけ」	天満東小学校 4年	ふじもと 藤本	さな 紗奈さん
「今でも思い出すこと」	稲美中学校 2年	ふじた 藤田	いつき 樹生さん
「ささいなことから」	稲美北中学校 3年	なるたき 鳴瀧	あおい 葵さん

受賞作の中から、天満南小学校 6年 尾住 宗真さんの作文を紹介します。

知っている人が増えたらうれしいこと

おずみ そうま
天満南小学校 6年 尾住 宗真



ぼくは漢字が苦手です。この作文も音声入力で作ったり、ぼくが話すのをお母さんがメモしてくれたりしました。

みんなにとって便利な文字は、ぼくにとってしんどいものです。入学前に、一文字も読めなかったぼくに、お母さんは『おずみそうま』と書いたものを見せました。するとぼくは、「母ちゃん読めるでしょ。」と読んでもらおうとしたらしいです。

これまで宿題で、漢字の時はお母さんが見本を書いてくれたり、なぞり書きをしてくれたりしました。本読みはデージー教科書という教科書をアプリで読み上げるのを聞いたりして追いかけて読んだりしました。

新聞記事のスピーチをした時は、記事をお母さんが読むのを動画で撮って、何回も聞けるようにしました。聞くと内容がイメージできました。メモに、キーワードだけひらがなで書きました。

音声入力は、自分の声を文章にしてくれます。インターネットなどで調べるときは、読み上げ機能も使います。

5年生になって病院に行きました。行く前「応援してくれる人が増えるよ。」と聞いたけど、お医者さんが分かってくれるかドキドキしました。診察室に入りました。先生が、「この字は読める？」などと聞いてくるので、(ひらがなは読めたけど、漢字はわからないから嫌やな…)と心の中で思っていました。「読んだり書いたりが苦手です。漢字を見ていると呪文みたいに見えてきます。」と、ぼくが話すのを先生は「しんどいよね。」と聞いてくれました。ぼくが困っていることを、何か知ってくれているように感じて、(この人やったら分かってくれる。)と思いました。

授業やテストの時は、読みがな付きにしてもらっています。読みがながないと、(こう読むのかな。)と予想しながら解くので、点数が低くなってしまいます。文章がずらっとしていて、英語みたくて気持ち悪くなります。

プリントを一度先生に読んでもらったことがありました。でも、(先生に悪いかな。先生、丸付けとか大変そうやな。)と思ってできなかったです。今クラスでは、みんなが困っていたら教え合うから安心して聞けます。

近くの席の子が「こうやで。」と教えてくれるから心の中で(ありがとう。)と、言っています。クラスで助け合っているのだから、ぼくも助かっています。

ぼくのLDは一緒に過ごしていないと分からないものです。みんなと同じやり方では「時間がかかる。」「疲れる。」と感じやすいようです。

これから中学校など、初めて出会う人には、「ぼくは、漢字を読むのが苦手です。授業の時に読むのにつまずいていたら教えてください。」と自己紹介をして、知ってくれる人を増やしていきたいです。ぼくの頭の使い方のクセには、LD という名前がついています。ぼくはみんなが助けられるから、ぼくができることをみんなにしたいと思います。

L D と は

LD(学習障害)とは、知的に問題はなく、読んだり書いたりすることに著しい困難を持つ状態をいいます。視力や聴力に異常がないのに、聞くことや話すこと、読む、書く、計算する、推論することのいずれかに困難さを持ちます。読み上げやルビ、ICT 機器の活用など合った方法で困難さをカバーすることで、その人の持つ力が発揮されやすくなります。

(文部科学省 平成11年「学習障害の定義」、認定 NPO 法人 EDGE ホームページ参照)

ともに学ぶ人権啓発講座 ほっとホットセミナー

稲美町教育委員会人権教育課では、町民の皆さま、どなたでも受講できる人権啓発講座を開講しています。令和4年度は5回の講座を開くことができ、たいへん有意義なお話を聞くことができました。

第1回「多様な性から考える」	講師:内藤 れん さん	6月 4日(土)
第2回「ヤングケアラー 私の体験」	講師:松岡 園子 さん	7月 16日(土)
第3回「部落差別の撤廃に向けて」	講師:細田 勉 さん	9月 10日(土)
第4回「子ども一人一人の健やかな育ちのために」	講師:鈴木 まや さん	10月 15日(土)
第5回「ヘイトスピーチは外国人差別です」	講師:古田 圭策 さん	11月 19日(土)



内藤 れん さん



松岡 園子 さん



細田 勉 さん



鈴木 まや さん



古田 圭策 さん

▶▶ 第2回ほっとホットセミナー

「ヤングケアラー 私の体験」～周りの人と一緒に～

松岡 園子 さん

私だけの経験になるかもしれませんが、何かお役に立てることがあればと思います。

母のケアの始まり

物心ついた時の家族は、祖父、祖母、母、私の4人で神戸で暮らしていました。私が小学校5年生の時、祖父が亡くなり、そのあと祖母が亡くなり、中学1年のころから母の様子がおかしいと感じ始めました。台所でだれもいないのに、母がひとりでしゃべっています。その時はすごく怖いと感じました。話しかけてもつじつまが合わない答えが返ってきて、本当にどうなったのだろうと不安になりました。

そのころから母は何もできなくなっていました。洗濯された物もなく、ごはんもない、何もないという状況でした。もう自分がやらなければしょうがないので、子どものできる範囲で洗濯をしたり、ごはんをスーパーで買ってきたりしていました。

母の病気、統合失調症

母の主な症状は、幻覚と幻聴でした。幻聴が聞こえたらそのとおりに動いてしまうところがありま



した。目が離せない状況でしたので、私は学校を欠席したり遅刻したりすることがけっこうありました。

私は当時、母の病気のことは何も知らず、病院に連れて行くことさえできていなかったのです。後に母の病気は統合失調症と知りました。薬を飲めば落ち着く病気ではあるのですが、そのことさえ知りませんでした。周りの人も知識がなかったようでした。

母と2人で生活すると決める

一旦、奈良に住む母の姉の家に住まわせてもらうことになりました。私はずっと伯母のところで住むと思っていましたが、私は児童養護施設に入って、母は入院することになりました。私は一度施設に入所したのですが、祖母が亡くなり母と引き離され、ひとりぼっちになったショックが大きく、どうしても耐えられなくて逃げ出すようなことを2~3回しました。祖母の友だちのところに駆け込んで、助けを求めました。話し合いの結果、無理やりでしたが神戸に帰り、すごく調子の悪い母と中学生の私が2人で暮らすという決断をしました。

何もできない母でも、一緒に暮らしたいという思いの方が強かったのです。炊事、洗濯、掃除、買い物、ごみ出し、近所つきあい、すべてできない母でした。私は学校も行かなくてはならなかったので、最低限の事しかできないという状況でした。

ヤングケアラーだった私にできなかったこと、できたこと

できなかったことは、習い事、部活、修学旅行、家族と外出・外食、お弁当を作ってもらう、参観日に来てもらう、自分が病気の時に看病をしてもらうことなどです。10代はじめ頃のヤングケアラーは、分からないことが多いのに自分で選択をしなければならないことも多いのです。

反対に母のケアをしながらでもできたことは、ピアノ(キーボード)を弾いて気を紛らわしたり、自己流でダンスの振り付けをしたりして満足していたことです。ストレスを和らげるために友だちと遊びに行くこともありました。心配な母親をおいていくことは思い切りがいましたが、やってみることも必要ではないかと思います。

金銭管理

生活費のことは、本当は福祉事務所に行って手続きすればよかったのですが、そういう知識も全くないので、祖母の残してくれたお金で何とかやり繰りしなければならなかったと思っていました。

友だちにもいろいろいて、助けてくれる友だちもいれば、つけこんでくる友だちもいました。大人がお金の管理をできない家庭というのは、一歩間違うとトラブルになってしまいます。その友だちは、遊びに行こうと誘ってきて、私が金銭管理をしていることも知っていたので金銭を要求してきました。私はすごく助けてもらっていたので断れなくて、しばらくお金を持っていくことが続いていました。でも家のお金が無くなっていくので、罪悪感を感じて別の友だちに相談しました。その友だちの親が学校に相談してくれて、学校がトラブルの解決を手伝ってくれたということがありました。そのときやはり大人の目が必要だと感じました。

また私が学校に行っている間に、セールスの人が来て、屋根の修理をもちかけられた母は信じ

込んでしまって、私が帰ってきたらもう契約書がありました。すごく高い金額が書いてありました。そんなとき周りの人から、亡くなったおじいちゃんの靴を玄関に置いて、「主人に相談します。」と言って帰ってもらうといいという知恵を授かりました。

お金のトラブルにならないためにどうしたらよいか、もしなってしまったときはどこに連絡すればよいか、周りの人の助けが本当に必要になると思います。

相談する人を選択していた

相談する人は、私の中では2種類に分かれていました。相談したら大ごとにして、私が施設に連れていかれる、そんな人には相談せず、近所の人とか友だちのお母さんのように、今の状況を変えずにアドバイスしてくれるような人を探していたと思います。味方になってくれる人、大ごとにしらない人、とがめない人に相談していました。

私を支えてくれた人たち

本当に助けになってくれた友だちがいます。母のことを言うと、怖いとか気持ち悪いとか言われるのかなと心配していたのですが、そこまで深刻に受け止めていなくて気が楽になったことがありました。母がひとりごとで歌を歌っているとき、いっしょに歌ってくれたので、私も深刻にならずにすみしました。家にも数人の友だちが泊まりに来てくれて、母のことも受け入れながら一緒にごはんを食べてくれました。

中学校にはお弁当を持っていくのですが、私は朝起きてお弁当を作る気力もなくて、毎日パンを買って食べていました。一緒に食べる友だちが、そのことを自分のお母さんに伝えてくれて、2～3人のお母さんがローテーションでお弁当を作ってくれるようになり、すごくうれしかったです。

子ども会では、年下の子に楽器の演奏を教えていました。その子ども会は、母と一緒に連れてきてもよいいってくれました。母を家にひとりおいていくのはとても心配だった私にとって、友だちもいるし、楽器も教えることができるし、憩いの場でした。

今思えば、住むところの選択はとても大事だと思います。友だち、友だちのお母さん、近所の人たち、子ども会の人たちは自分の育った町でないといなかっただろうし、施設に入れば安定した生活が送れたとは思いますが、私が神戸にこだわったのは、そういう環境を変えたくなかったのだと、今振り返って思います。

中学校卒業～定時制高校へ

中3になると、進路の選択があります。その時まだ祖母の貯金でやり繰りしていましたが、自分は働こうと思っていました。先生から働きながら学べる定時制高校を紹介してもらいました。給食会社に就職し、朝8時から4時まで働いて、5時半から学校という生活でした。そのころ母の症状はだいぶ落ち着いてきていて、福祉作業所に通うようになっていました。母がひとりで家にいると心配ですが、福祉作業所に通うようになってからは安心して働けるようになりました。もし調子が悪くなくても作業所のスタッフの方が手助けしてくださり、私ひとりで背負わなくてもよいようになったのです。すごく気持ちが楽になりました。

先輩からの励ましの言葉

職場の先輩から感動する言葉をかけてもらいました。「お金はいくら稼いでも盗られることもある。形のあるものはなくなることもある。でも自分の蓄えた知識は生きているかぎりなくなるしないし、だれにも盗られない。人は裏切ることにはあっても、自分のした勉強は裏切らない。何もなくなってしまっても最後まで自分を助けてくれるのは、自分の頭の中の知識・・・だから勉強を頑張る。」と言われました。この言葉は今でも残っています。何回も思い出して、また頑張ろうと思えたり、すごく力になりました。

自信につながったこと

中学3年生の時に、合唱コンクールの伴奏に立候補して、伴奏させてもらいました。また自分で振りつけしたダンスを子ども会で発表することができました。

定時制の商業科では、いろんな資格に挑戦していくことに力を入れていました。私は熱心な指導のおかげで簿記検定2級に合格できました。高校の授業だけではとても追いつかない内容なので、先生にお願いして併設していた社会人コースでも勉強させてもらいました。おかげで合格できたと思います。

また生活体験発表会に学校代表で出たことはいい経験でした。兵庫県の定時制高校の生徒が自分の体験を話すのですが、私にすれば、そうしなければならなかったことだけれど、改めて人前で話してみると、様々な反応が返ってきました。これらのことは、後押ししてもらったおかげで、難しいことに対してでもチャレンジできたという自信になりました。

母の気持ち

母は、病気のときの記憶はほとんどないと言っています。やってやりたいのだけれど頭が回らないとも言っていました。それが辛かったようです。大学受験のころ、母の状態はかなり安定しており、指定校推薦で神戸大学の夜間の部に入学することもできました。私は働きながら大学に通いたかったのです。母は、自分が働けなかったのが娘が夜間の学校しか行けなかったことに責任を感じていましたが、私にしてみれば自分で選択した道なので、母のせいだとは思っていません。

今のヤングケアラーに伝えたいこと

家族のケアをしたことが自信につながればいいと最近思います。我慢するのが当たり前ではなく、自分も楽しい思いをしてほしいと伝えたいです。ケアしたことを肯定的にとらえ、自分のことも大事にしてほしいと、今のヤングケアラーに言いたいです。

また、学校の先生とか近所の人たちから「がんばっているな。」と認められ、誰かが見守ってくれていることで安心し、救われました。しかし今振り返って思うことがあります。母に代わって働いて夜は勉強もして、認められている反面、プレッシャーに感じてしまうことがありました。例えば遊んでしまうと「がんばれてないのでは。」というふうに、自分を追い込んでしまうことにもなりました。それってけっこうしんどいことなのです。「息抜きしてもいいのだよ。遊んでもいいのだよ。」という声かけもときには必要だなと思います。

明るく働きやすい職場をめざして 稲美町企業人権・同和教育協議会

地域でがんばる企業の仲間

稲美町企業人権・同和教育協議会（企同協）には、現在29の企業・事業所が加盟しています。「明るく働きやすい職場づくりをめざして」をスローガンに、働く人全てが人権意識の高い職場となるよう、努力を続けています。

▶ 主な取組1 研修会

年2回、加盟企業・事業所の代表者による研修会を行っています。令和3年度は、「ワーク・ライフ・バランス」「男女共同参画社会の実現に向けて」を研修した後、各社・事業所の現状などの情報交換をしました。

▶ 主な取組2 人権啓発物品作製

加盟企業・事業所名を記載した人権啓発クリアファイルを作製し、加盟企業・事業所に配布しています。また人権関係の大会・集会等で配布し、企同協加盟団体の活動をアピールしています。



明石機械工業（株） 所在地：印南2337

■職場のテーマ：人を大切にする会社

■取組：「人権と平等」を考える教育の実施

明石機械工業株式会社は、地域の皆様に支えられ、今年で創立76周年を迎えることができました。私たちは自動車の基幹部品のモノづくりを通して皆様の生活を支えるとともに、清掃活動による地域貢献も行っています。

また私たちは、働く人すべてが「お互いを思いやり、尊重する気持ちを持てる人づくり」が重要であると考えて、毎年新入社員の導入教育において、“人権の大切さ”の理解を深める人権教育を稲美町教育委員会にお願いしています。エキスパートの講師に人権や平等について、わかりやすく教えてもらっています。



新入社員研修（野外活動）



店内業務のようす



兵庫南農業協同組合 天満支店 所在地：国岡3-24-1

■職場のテーマ：感謝・挑戦・自律

■取組：ひとり一作「人権標語づくりにチャレンジ！」

兵庫南農業協同組合は、組合員・地域の方々と共に繁栄できるよう、「たすけあい」の精神をもって事業展開をしています。天満支店は従業員27名で、金融・共済事業を通じて皆様とのふれあいを大切にしてきました。

毎年、人権標語を支店全員で考えて、稲美町人権・同和研究協議会に応募しています。そして毎年優秀賞をいただいています。人を大切にするとはどういうことか、知恵を絞って考えることが仕事にも活かされています。

◇稲美町企業人権・同和教育協議会（企同協）へ加盟しませんか◇

《年会費》 従業員49名以下 3,000円 従業員50～99名 5,000円 従業員100名以上 7,000円

《連絡先》 企同協事務局（稲美町教育委員会人権教育課内） 電話：079-492-2550

2022年は 全国水平社創立100年 です

全

国

水

平

社

宣

言

要

約

全国の被差別部落の仲間たち、団結しよう。

明治になって以来半世紀、様々な方法と多くの人々が私たちの

ためにしてきた運動は、部落差別解消の効果をもたらさなかった。

これまですべての人が人間をないがしろにしてきた罰である。憐み

や同情では差別はなくなるらないのだ。それはかえって多くの仲間を

墮落させた。私たちは今、人間を尊敬することによって、自らを

解放するために団結して行動を起こそう。〔中略〕

卑屈な言葉や臆病な行いによって祖先をはずかしめたり、人間の

尊厳を侵したりしてはならない。人の世がどれだけ冷たいか、よ

く知っている私たちだからこそ、心から人の熱（暖かみ）と光

（明るい未来）を求め願うのである。

そうして水平社は生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月 水平社

1871(明治4)年、明治政府は12世紀ごろから続いていた被差別身分を解放する賤民廃止令を公布した。以後、一部の富裕層や国の主導によって、被差別部落の生活を改善する運動が起きたが、差別意識は解消の兆しが見えないばかりか、就業の自由からも排除されるなど、被差別部落の人たちは新たな差別構造のなかで、差別や不当な扱いに苦しめられる生活を強いられた。

大正時代に入って、各地で部落差別に抗議する声が高まるなか、その声を代表するように奈良県を中心とした有志が立ち上がった。憐みや同情ではなく人間は互いに尊敬し合うべきものであり、すべての人の対等で平等な関係を追求するというこの理念は、瞬く間に全国に広がっていった。

水平社宣言は被差別当事者が発信した世界初の人権宣言とされ、水平社の活動は当時の民主化運動の波にもまれながら、多くの人々の共感を呼び、日本社会の近代化に多大な影響をもたらした。



2022(令和4)年度「こころあったか(人権)ポスター」優秀作品

稲美北中学校3年 井上 ^{ももか} 桃花 さん

編集委員

中谷 和枝 島 由美子
坂口 智彦 佐藤 昭則

事務局

瀧口 泰広 大山 健次

2023(令和5)年2月

この冊子に関するお問い合わせは、稲美町教育委員会人権教育課(TEL 079-492-2550)まで